

もっと知ってほしい、デイケアだからできること。

ほほえみ通信+

ぶらす

hohoemi



vol.03

Jan. 2019

西宮協立デイケアセンター ほほえみ
西宮市津門呉羽町10-13
TEL:0798-36-6780 FAX:0798-36-6766

西宮協立デイケアセンター 第2ほほえみ
西宮市津門呉羽町9-10 1F
TEL:0798-33-3501 FAX:0798-33-3502

リハビリテーションマネジメント で、リハビリをもっとわかりやすく。



リハビリテーションマネジメントとは？

rehabilitation management



利用者さまのお体や生活の状況を把握し、リハビリテーション計画を作成します。定期的に計画書の見直しを行い、その内容に沿って質の高いリハビリテーションをすすめます。利用者さまに効果的でバランスのとれたサービスを提供することができます。

リハマネ加算Ⅲ

- 開始から6ヶ月以内 1,120 単位 / 月
- 開始から6ヶ月以降 800 単位 / 月

リハマネ加算Ⅳ

- 開始から6ヶ月以内 1,220 単位 / 月
- 開始から6ヶ月以降 900 単位 / 月

リハマネ加算Ⅲに加え、厚労省ヘデータを提出し、フィードバックを受ける(算定は3月に1回程度)

1

安心して取り組める



医師からリハビリテーション計画の説明があります。その場で医師に直接、生活上の困り事などを相談できます。

※都合などで医師の予定と合わない際には代理でリハビリ専門職から説明します

2

効果が見えるアドバイス



目標達成のために必要な支援や日常生活の留意点について利用者さま・ご家族、他サービス関係者の方へ、リハビリテーション専門職が適切なアドバイスをを行います。

3

その場で解決



ご自宅に訪問して、実践の場面で確認を行います。その際、問題が解決できるよう環境調整や介助方法などご本人とご家族へアドバイスをを行います。

4

チームでサポートします



リハビリテーション会議[※]を行い、チームでサポートします。会議では、利用者さま、ご家族、医師、デイケアのスタッフ、他のサービス関係者が一同に集まり、リハビリテーションの目標や内容を共有します。

※開始月から6ヶ月以内は月1回、6ヶ月以降は3ヶ月に1回実施



退院直後のまひの回復と 家事労働動作獲得を支援



対象

プロフィール

年 齢 : 64歳 (元ピアノの先生)
介護度 : 要介護1
疾患名 : 脳梗塞(左中大動脈)、右片まひ

退院の10日後、右手と言語のリハビリを目的に利用開始。ADL 動作は自立しているが右手の使用がほとんどない(右手にまひがある)。

1 《目標》 タオルがたためる



リハビリ会議の中で、主婦としてのご本人から家事動作について希望があった。具体的な目標として、まずはタオルをつまむことができるよう実動作練習と物品を使用した機能練習を開始。

結果

生活の中で右手を使うことが増え、タオルたたみができるようになった

2 《目標》 右手でごはんを食べる



2回目のリハビリ会議にて、達成状況の確認と困っていることやできていないことを共有。新たに食事についての目標を挙げ、デイケアでのおやつ時に右手でフォークを使用する動作練習を行った。

結果

自宅でもフォークを使用し食事ができるようになった。

3 《目標》 両手での家事動作を増やす



デイケア・自宅ともに、手の練習を自主トレとして実施。洗濯たたみや食器洗いなどの実動作の中で右手の指導を行い、できるようになったことはリハビリ会議で家族やケアマネに共有。

結果

自宅で洗濯たたみ・干しが自分でできるようになり、その他の家事動作にも挑戦し始めた。

まとめ

退院後、発症からの期間が間もないため、予後予測にて手のまひは回復の可能性があると見込まれていた。リハビリテーションマネジメントを通し、ご本人・家族・ケアマネと、ご自宅で困っていることや目標にしたいことを相談。目標の細かい設定と共有ができ、早期に家事動作獲得につながった。